



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-70

(2024. 8. 27)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

研究員 西 俊樹

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

データで読み解くこれからの信用金庫経営 (15) ROA

— 信用金庫のROAおよびコア業務純益ROAは上昇 —

ポイント

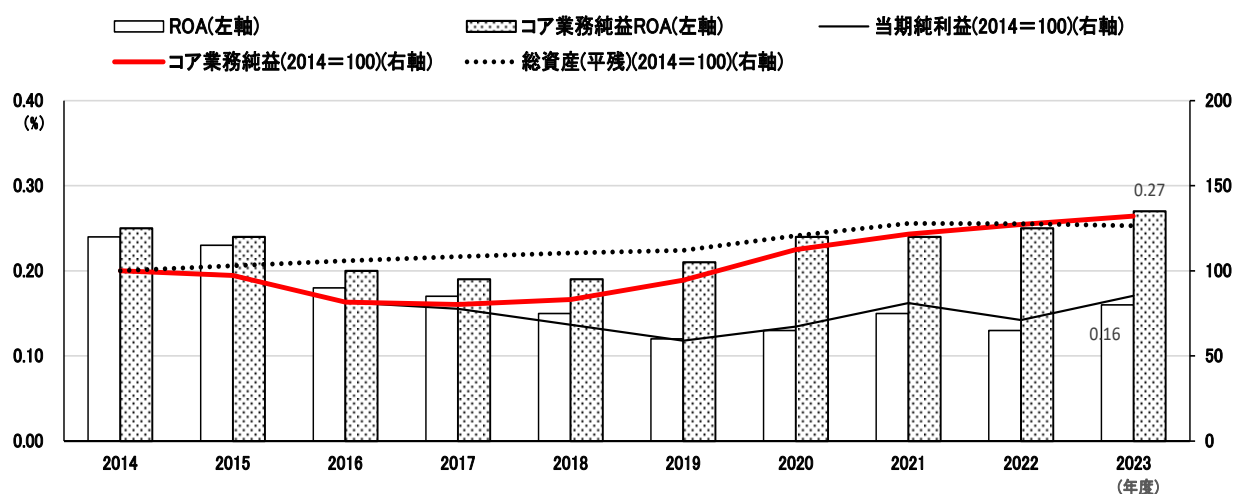
- 2023年度の全国信用金庫のROA(総資産当期純利益率)は、前期比0.03ポイント上昇の0.16%、信用金庫の本業部分での収益性をあらわすコア業務純益ROA(総資産コア業務純益率)は、同0.02ポイント上昇の0.27%となった。
- コア業務純益ROAの大半は貸出金ROAが占めている。また、経費ROAは2022年度まで改善していたが、2023年度はやや悪化した。
- 信用金庫別のコア業務純益ROAは総じて上昇している。中でも、0.20%~0.30%以下の信用金庫が最多となり、0.60%超の信用金庫も増加している。

1. ROA・コア業務純益ROA(全国)の状況

2023年度の全国信用金庫のROA(総資産当期純利益率)は、前期比0.03ポイント上昇の0.16%、信用金庫の本業部分での収益性をあらわす¹コア業務純益ROA(総資産コア業務純益率)は、同0.02ポイント上昇の0.27%となった。

過去10年間における推移をみると、ROAは2020年度以降、コア業務純益ROAは2019年度以降、上昇傾向である。当期純利益、コア業務純益、および総資産(平残)について2014年度を100として指数化すると、近年ではコア業務純益の伸びが大きく、コア業務純益ROAの上昇に寄与している(図表1)。

(図表1) ROA(全国)の状況



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

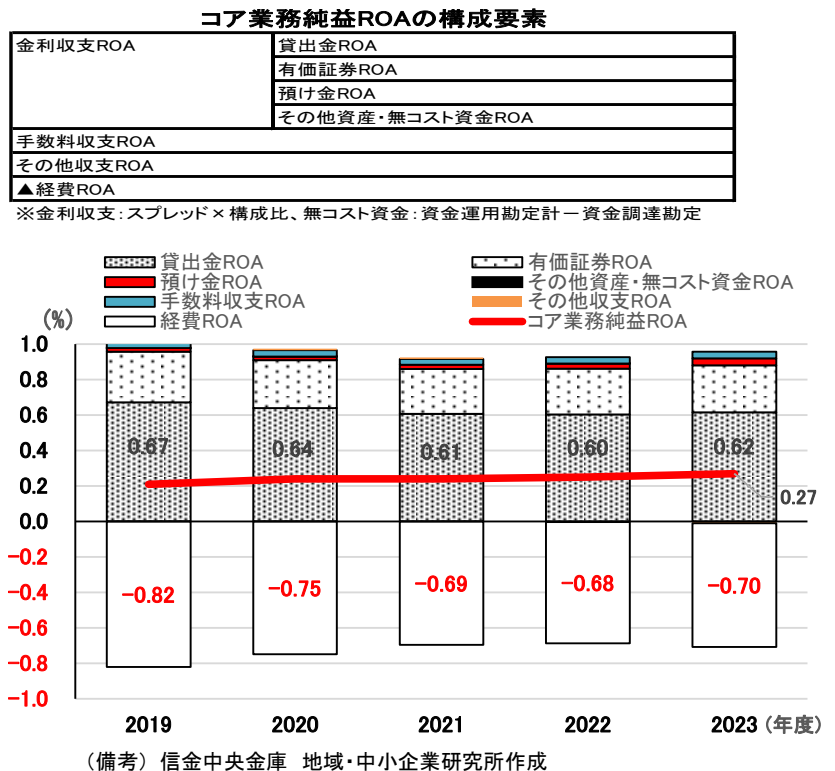
¹ コア業務純益＝業務純益－債券5勘定戻((国債等債券売却益+国債等債券償還益)－(国債等債券売却損+国債等債券償還損+国債等債券償却))＋一般貸倒引当金繰入額

2. コア業務純益ROAの構成要素比較 (図表2)コア業務純益 ROA の状況

コア業務純益ROAについて、構成要素別に近年5年間の推移を示す(図表2)。

コア業務純益ROAの大半は貸出金ROAが占めている。また、経費ROAは2022年度まで改善していたが、2023年度はやや悪化した。

なお、2023年度においては、貸出金ROAが上昇し、経費ROAの悪化分を補っている。

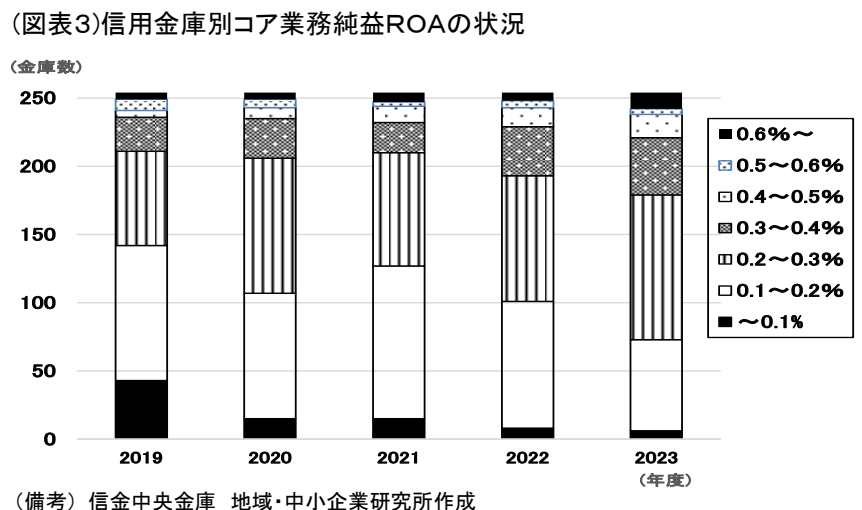


3. 信用金庫別コア業務純益ROAの状況

次に信用金庫別に、近年5年間におけるコア業務純益ROAの推移を示す(図表3)。

コア業務純益ROAは総じて上昇している。0.20%～0.30%以下の信用金庫が最多となり、0.60%超の信用金庫も増加している。

本稿では、2期間比較(2019年度末と2023年度末)でコア業務純益ROAを確認したところ、信用金庫別では上昇210金庫、低下44金庫と、上昇金庫が多い状況となっている。



全国信用金庫のコア業務純益ROAは近年上昇しているが、2022年度までは経費ROAの低下が寄与してきた。一方で、貸出金ROAは2023年度に上昇に転じ、今後のコア業務純益ROAに与える影響は大きくなるものと考えられる。

以上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。